

# こども病院の人工島移転 市民無視は許せない!

署名9万3586筆

日本共産党も紹介議員となつている「こども病院の人工島移転に反対する請願」が7月17日に議会に追加提出されました。署名開始から約3カ月半の間で9万3586筆に達したことは市民の怒りのあらわれです。

請願は「継続審査」に。  
議会も不採択にできず

こども病院の人工島移転に反対する請願が7月22日の第2委員会で審査され、約50人の市民が傍聴に詰めかけるなか、「継続審査」となりました。

市当局の方針に反対する請願を議会が『不採択』にできなかったことは重大です。9万署名の力が議会を動かしています。吉田市長はこの結果を真摯に受けとめるべきです。

日本共産党はさらに世論と運動を広げるためがんばります。

市長は議会の意思に従え

日本共産党市議団は7月25日、議会が反対請願を継続審議としたものの市長が強行決定しようとしている事態を受け、「市長は市議会の意思を尊重して、こども病院の人工島移転を決定せず白紙撤回すべきだ」と要求し、見解を問う質問状を市長へ提出しました。

市長は市民説明会に出席せず、議会でもまともな説明をしていません。市民に対し市長自身の考えを明らかにすべきです。



反対請願の提出

市長に質問状を提出



## 「人工島の破たん救済やめよ」 患者・市民の怒り爆発

患者説明会（7月5日と17日）や市民説明会（10日）が開かれましたが、参加者から「人工島に移転されれば子どもの命が救えない」「人工島のツケを子どもに押し付けるな」「市長の公約違反だ」などの切実な不安や厳しい批判の声が相次ぎました。

しかし市当局は「病院機能を強化するために、最低3ヘクタールを確保できる人工島が最適」との説明を繰り返しました。吉田市長は「広さが一番大事で、交通アクセスは次だ」などと発言。患者家族の願いに背を向ける冷たい態度をとっています。

「市長はもうやめてほしい」という声があがるのも当然です。



こども病院の  
人工島移転

市長の公約違反！  
今すぐ白紙撤回せよ

## 市長が「広さ」に こだわるわけは？

市当局は人工島の病院用地面積を「最低3ヘクタール」と突然言い始めました。6月までの説明にはなかったことです。その理由は「機能強化」ですが、「将来の建て替えに備えて、駐車場スペースを広く確保したい」などと説明し始めました。明らかな矛盾です。

吉田市長は「人工島救済のために病院移転を考えたことはない」とうそぶきましたが、病院移転を口実にして広大な土地を「博多港開発」から買い取るようとしていることは明らか。破たんした人工島の救済のために、子どもの命を犠牲にすることは許されません。

## 前市政の委託業者に 「検証」を指示

市が新病院構想の業務委託をしているコンサルタント会社の問題が新たに浮上りました。

吉田市長が昨年おこなった「病院移転事業の検証・検討」は、実はコンサルタント会社に業務委託して、こども病院の人工島移転へと導く報告書を作成させていたことがわかりました。しかもその会社は、山崎前市政時代に「市立2病院の統合移転」を進める業務を担っていました。

吉田市長が就任直後から「こども病院の人工島移転を見直す」との選挙公約を破り、前市長の敷いたレールの上をひた走ってきたことが裏付けられました。